



まとい 消防瓦版纏 No.378

火災・救急・救助 119

富良野広域連合富良野消防署占冠支署
56-2119

救急車適正利用について

みなさんは「救急車の出動件数が年々増加している」といったニュースを耳にしたことがあるかと思います。占冠支署も例外ではなく、平成元年の救急出動件数は83件だったのに対して、令和元年の救急出動件数は216件となっています。比較すると約2.6倍も増加していることとなります。また、令和元年に病院へ搬送した患者の約5割が軽症となっています。

占冠支署の救急車が一度出動し、病院への搬送が完了して村に帰ってくるまでに要する時間は、令和元年の平均で2時間44分です。救急車が出動中の場合は近隣の消防へ応援を呼ぶため、救急車の到着が遅れてしまいます。軽いケガや緊急性のない要請は、救急車を本当に必要としている方への処置を大幅に遅れさせます。救急車を本当に必要としている方のために、救急車の適正利用にご協力をお願いします。また、占冠村のホームページでは「救急車利用マニュアル日本語版」を掲載していますので、救急車を呼ぶか迷った際にはご利用ください。



救急出場状況(2月分)

交通事故	1件(1人)
一般負傷	14件(13人)
急病	2件(2人)
その他	1件(0人)
2月計	18件(16人)
累計	51件(44人)
※()内は搬送人員	

地域とともに コミュニティ・スクール情報 ～占冠中央小学校～

昨年度、占冠中央小学校では、「専門家や遠隔地の学校との多様な交流を広げることによる国や地域の将来を担う子どもの夢を育む学校」をめざし、薬物乱用防止教室やがん教育、国際感覚を育む教育など、その分野の専門家に学校に来ていただき、お話をいただいたり、体験的な学習を行ったりして、学習内容の理解を深めてきました。

また、トナム学校との合同修学旅行や合同宿泊研修の事前学習会、国語の話し合い活動で、TV会議システムを活用して交流学習を行う遠隔授業を行ってきました。

中でも2月には、福島県にある富岡第一小学校第5学年の子どもたちと遠隔授業を行いました。社会科の学習「寒い地方に住んでいる地域の人々の生活」の単元で、雪のある占冠村と雪のない富岡町の生活の違いをまとめて紹介したり、発表に対して質問したりするなど、その場で双方向のやりとりを行いました。



【富岡第一小学校との遠隔授業の様子】

小規模の学校では、人間関係が固定化され、今までと違う集団に入ったとき、自ら人間関係を作ることが苦手と言われていますが、遠隔授業を行うことで、知らない人に自分の考えや意見を言えたり、相手の考えを受け入れたりするやりとりの機会が増え、子どもたちの成長に大きな効果を得ていると感じています。

今年度も多くの方との関わりをもてる学習を積極的に取り入れていきたいと思っています。

占冠村教育委員会 ☎ 56-2182

こんにちは

保健師です

このコーナーでは、住民の皆様が健康で元気でいられるための情報をお届けします。

困りごとがありましたら、お気軽にご相談ください。

住民課保健予防担当 ☎ 56-2122

子宮頸がん

子宮頸がんは、40歳代の女性に発症のピークがあります。しかし、近年、10歳代後半から20歳代の若い世代に子宮頸がんの発症率が増加しつつあります。

子宮頸がんの原因とされているのは、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染です。

HPVは、性交で感染します。性交する年齢が年々低下していることが若い世代の発症と関係すると言われていています。HPVは非常にありふれたウイルスでどこにでもいます。

子宮頸がんは、全く自覚症状がありません。細胞がダメージを受けると、はじめに異形成（前がん病変）となります。異形成の状態になっても、ほとんどの人が正常細胞に戻りますが、ごく一部の人が上皮内がん（早期がん）へと進行します。進行すると、不正出血や月経不順等がみられます。

20歳以降は2年に一度の検診をお勧めしています。検査は、細胞診と呼ばれる細胞の顕微鏡検査です。細胞診の結果は、5段階です。

クラスⅠ・Ⅱ	正常
クラスⅢa	軽度ないし中等度の異形成（前がん病変）
クラスⅢb	高度異形成
クラスⅣ	上皮内がん（早期がん）
クラスⅤ	浸潤がん

初期の段階で発見できれば、ほぼ完治し、妊娠や出産も支障ありません。まずは、がん検診を受けることが大切です。

卵巣がん

卵巣腫瘍のうち、悪性のものを卵巣がんと言います。一般的には、40歳代から増加し、50歳代から60歳代がピークです。

原因は不明ですが、排卵時に卵巣が傷つき、その傷からがん化すると考えられています。また、出産歴がない、肥満、食事、ホルモン補充療法なども卵巣がんの発生リスクが高まることが指摘されています。

卵巣がんは、沈黙のがんと言われ、初期は自覚症状がありません。腫瘍の大きさがこぶし大になると、腹部が膨満する、下腹部が重いなどの症状が現れます。がんを小さいうちに発見するには、超音波検査で卵巣をチェックすることが大切なため、子宮がん検診に合わせて、受診をおすすめします。

乳がん

乳がんは、罹患率、死亡率ともに上昇が続いています。日本女性の特徴は、閉経前の乳がんが多く、40歳代後半に最も頻度が高くなっています。また、遺伝性のがんは、乳がん全体のうち約5～10%を占めます。乳がんの症状は、しこりに触れる約83%、乳頭分泌物約5%、痛み約2%となっています。また、無症状でも超音波やマンモグラフィで、小さなしこりや石灰化などを指摘され、発見される乳がんもあります。

その他、女性が受けておきたい検査

占冠村では行っていませんが、甲状腺や膠原病など、自己免疫疾患の検査があります。これらは、女性にとって体調不良や月経不順を起しやすいためだけでなく、メンタルにも影響します。現在のところ、症状がなければ自費検査になりますが、病院で検査を受けることをお勧めします。

占冠村子宮がん・乳がん検診

占冠村では、子宮がん検診（超音波検査セット）、乳がん検診を年1回行っています。

子宮がん・乳がん検診 令和2年5月27日（水）

詳しい検診の内容は、行政区回覧をご覧ください。